

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎県宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100493-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=02">http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100493-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=02</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①運営推進会議では、一部の地域住民や利用者家族にも、ほぼ毎回参加の声かけを行い、地域との関係が深められるよう、積極的に働きかけた。また、会議内容では認知症の勉強会や救急法等を行い、具体的な利用者の生活の様子を個人情報に配慮し、紹介を行い、偏らない理解を進めた。また、美容室利用者を増やしたり、スーパーの買い物、喫茶店利用、回覧版を利用者と共に回すなどで、利用者様が地域との関わりを持ち、なるだけ地域の一員として暮らしていけるよう努めている。②排泄支援では、日中はオムツに頼らず、布パンツ使用を基本とするケアを継続し、利用者様の尊厳が保たれるよう支援している。③その他、食事の下膳や衣類着脱、洗面など、できる事は自身でしていただくよう、自立支援を重視したケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは街が一望できる高台に位置し、近くにスーパーや美容室、飲食店、病院などがあり、暮らしやすい生活環境にある。利用者ができるだけ自身の力で生活できるよう、し過ぎないケアや役割・出番づくりを支援し、その人がその人らしく生活できるように、尊厳を重視したケアのあり方を工夫するなど、自立支援を実践している。地域では認知症の理解を深めるため勉強会を開催したり、互いに行き来することでホームの取組や近隣の認知症高齢者の情報交換を行い、地域で暮らすための協力体制を築くよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、職員全員で理念の再構築を図るため、勉強会の場で理念の再確認を行った。事業所内の数か所に理念を掲げて、日々職員が理念を共有できるよう努めている。	全職員で意見を出し合い、ホーム独自の理念を作成している。職員会議で理念の再確認を行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版を利用者と共に隣家に届け、近所のスーパーに買い物に出かけたりして、利用者が地域と関わりを持ちながら生活できるように支援している。また、地域の活動の一環で、民生委員による事業所訪問の機会も増えてきた。	認知症の勉強会や夏祭りなどを開催し、地域の参加も得ている。近くのスーパーや喫茶店へ出掛けることで顔見知りになり、地域行事や近隣の高齢者の生活状況などの情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に出席する機会があり、1ケースについての暮らし方について、民生委員や地域包括の職員、他事業所のケアマネと検討した。また、運営推進会議に地域住民を招き、認知症の勉強会を行い、認知症の理解を深めていただく機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域住民、ご家族、利用者に参加していただき、事業所の近況報告を行っている。利用者の様子を紹介したり、認知症の勉強会を開催して地域の理解を深められるよう努めている。また、地域住民などから連絡事項などがあつたり、情報交換の場にもなっている。	運営推進会議で散歩コースの環境を改善することや利用者が家族と過ごすための工夫などを話し合い、意見を生かした取組がなされている。また、地域と情報を交換し、災害時に互いにできることを話し合うなど、協力体制を築く場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所で問題に直面した時は、市役所に問い合わせる問題解決に向けた取り組みを行っている。	ホームで起きた問題や運営上の問題などを積極的に市の関係者に相談している。「トイレに鍵をかけたい」という利用者の希望があり、双方に配慮した解決方法を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に勉強会に取り入れており、職員全員が正しく理解している。また、新人職員のオリエンテーション時にも必ず説明を行い、抑圧感のない暮らしを支援している。	身体拘束をしないケアについて、研修に参加し勉強会を行ったり、気付かないうちに拘束していないかを職員同士で確認し合っている。転倒リスクの高い利用者のセンサーマット使用について家族と話し合い、使用しない方法でケアの実践をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に定期的に参加しており、特に潜在しがちな心理的虐待には細心の注意を払っている。研修を受けた後は、勉強会にて内容をスタッフに周知・徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を検討している利用者がおられるため、次回の勉強会で成年後見制度について学ぶ機会を設ける予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはもちろん、利用中の料金の変更などは各自口頭で説明し、同意書を頂いている。また、契約後も気軽に質問や要望を聞き出せるような環境づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やケース担当者会議などの個々の場で、意見や要望を引き出しやすいような環境づくりに努めている。また、利用者からの言葉や表情からも、意見をくみ取れるように努めている。	利用者からは日頃の会話の中で希望や要望をくみ取っている。家族からは来訪時や運営推進会議を通して意見を聞いている。直接言いにくいことや発言しにくいことは、個別に設置した連絡ボックスを利用してもらい、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から提案や相談事がある際は、時間を設けてゆっくりと聞き出せるように努めている。職員からの意見は、反映できるよう連絡を密に行っている。	月1回の職員会議や日頃から、意見や提案を聞いている。職員の働きやすい時間帯で勤務できるよう配慮したり、必要な物品などの提案を聞き、ケアに生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、勤務状況などを把握し、職員処遇への反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業所内での勉強会はもちろん、職員の希望する研修会には参加できるよう努めている。また、事業所で必要と思われる研修会は、適任者に受講してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、近隣地区の介護支援専門員の研修委員を行っているため、同業者との交流や連携が密にできている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前になるべく多くの情報を収集するため、直接本人と面談をして、信頼関係が築けるよう努めている。また、サービス開始前から顔なじみの関係を作ることで、安心して入居できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や疑問に耳を傾けられるよう、事前に事業所の方針や理念を説明している。また、本人からだけでは聞き出せなかった不安や要望も受け止められるよう、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の担当介護支援専門員などから情報を得る中で、当事業所が不適切と判断すれば、その方に合ったサービスの提案やアドバイスを伝えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、一緒に洗濯や片づけを行っている。また、お茶の時間には職員も一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんだり、利用者の声に耳を傾けられるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には居室で一緒にお茶を飲んだり、ゆっくりと過ごせる場所を提供し、配慮している。また、面会時には利用者の状況を伝え、安心していただけるような声掛けを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、入居前からの馴染みの美容室に行かれている方が数名おられる。また、近所の美容室にも数名の方が行かれるため、2か月に1度程度のペースで美容室へ送り迎えをしている。	知人や友人が気軽に訪問できるよう明るく対応し、いつでも来訪できるようにしている。遠方の家族と手紙をやり取りしたり、ドライブ時に自宅周辺や昔働いていた職場などを通るなど、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で居室で談話されている時は、居室にお茶やおやつをお持ちしている。また、体操やレクリエーションなどへの参加を促し、利用者同士の交流の場になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の施設等のケアマネに、その後の状況を伺っている。また、退所後にも本人の状況を年賀状や手紙でやり取りをしたりして、関係性が続けられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員は、日々変化する細かな情報を介護記録や職員から直接聞くことで、本人の意見や希望を把握できるよう努めている。また、利用者との普段の会話の中からも、思いや希望を聞き出せるよう努めている。	入居時に希望や意向の情報収集をし、また、自宅を訪問し生活状況を確認することで、どんな暮らし方をしていたのかを把握するようにしている。日々のケアの中からも、伝えきれなかった思いや意向をくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前サービス利用事業所、及びケアマネに情報を得ている。また、入所時にはセンター方式の記入を家族に依頼する事で、より詳しい過去の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックはもちろん、顔色や表情、言動などから、一人ひとりの心身状態の把握に努め、職員全員で共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所直後や退院後のプランは家族の協力のもと、1~2か月での見直しをした。また、家族の参加が難しいケースは、前ケアマネに参加を依頼したり、健康面が主となるケースは、主治医の参加も要請した。	毎月、全職員でモニタリングをし、目標の達成度や新たな課題について話し合っている。医療度の高い利用者は状態に応じて見直しを行い、主治医も参加し、介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録がないときは、付箋を貼って職員に書くよう促したり、ケアプランの見直し時にはスタッフ個人に意見を書いてもらった。また、毎月の職員会議で全員でケース検討をした。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に入所後、退院後はサービス内容に記していないことが多々あり、柔軟にケアしてきた。ドクターと連携し、訪問看護を2～3日入れてもらうケースもあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容室を定期的にご利用している利用者が4名おり、美容室の人と顔なじみの関係ができてきている。また、歩いて行ける距離の喫茶店を利用したりと、地域資源を利用した暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医の継続を基本としているが、ご家族や本人の負担を考慮し、本人同意の上、事業所の協力医に変更となったケースがあった。今後も、入居時には、馴染みの医師による医療が受けられるよう支援していく。	昔からのかかりつけ医は継続可能だが、受診の付き添いは家族に依頼している。ホームは、状態の変化などを家族に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。ホームの協力医が訪問診療をすることから、診療の様子などで変更する利用者も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状態を職員全員が把握し、細かな状態の変化に気づけるよう努めている。また、状態変化や異常に気づいた時は、看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず生活情報提供書を提出すると共に、ケースワーカーや看護師と面談し、家族とも連絡を密に行うようにしている。退院の指示があれば、受け入れ態勢を早急に検討し、プランを立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取りケアについての同意書を頂いている。昨年2月に2人目の看取りケアを行った。家族の希望や要望を確認し、事業所としての方針も説明、納得していただき、支援した。また、終末期には、ドクターとの連絡体制も密にした。	重度化した場合は、家族・主治医・看護師・職員で話し合い、看取りについての方針や希望・要望を確認し、チームで支援に取り組んでいる。状態の変化や気持ちの変化時には、その都度確認し合い、納得のいく看取りを実現している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修を受講した上で、職員は、緊急時の対応を日ごろから意識して業務にあたっている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、災害時の対応を身につけるよう努めている。また、近隣の住民や家族を招き、避難訓練を実施し、災害時に協力体制ができるように努めた。	年に2回、地域住民の参加を得て防災訓練を実施している。地域から、災害時の避難場所としてほしいとの要望もあがっている。職員の防災に備えての意識はあるが、役割分担が明確ではなく、備蓄や物品も不十分である。	火災・地震・水害等、個別にマニュアルを作成し、手順や役割を明確にするとともに、実施記録や備蓄の確保・活用できる物品の備えを行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねるような言葉かけにならないよう、入居時に呼び名を確認するなどの工夫を行った。また、トイレや居室のドアのノックの徹底の他、職員間で声掛けに注意しあえるような環境づくりにも努めている。	言葉遣いに配慮し、職員間でも気づいた時は、注意し合っている。職員が居室に入る時は、利用者に断って入り、汚物の処理などの声掛けは、周りに気づかれないよう配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から、食事のメニューについての希望が出たため、すぐに反映したところ、とても喜ばれた。定期的に、利用者の食べたいメニューを聞き、可能な限り反映できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりの趣味や性格を把握するよう努めており、できる限り、その人のペースに合った暮らしができるよう努めている。また、入浴や食事、体操などもその日の本人の体調や気分に合わせて、強制しないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、可能な限り利用者に衣類を選んでもらえるよう働きかけ、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、朝は自身で鏡の前で洗面、整髪ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見て、利用者と共にその日のメニューを考えていただけるよう、話しかけたりすることで、食べることに楽しみを持っていただけるよう支援している。また、できるだけ職員も同じものをテーブルを囲んで食べることで、食事の会話も楽しんでいる。	食事のメニューを一緒に考えたり、調理や食器洗いなど、個々の力量に合わせ手伝ってもらっている。節分に海苔巻きを作り、長年培ってきた技を発揮してもらったり、バイキング料理の時には家族も参加し、一緒に食事をする機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の記録表に食事量のチェックを行い、職員全員が食事量を把握できるようにしている。食欲低下がみられる時は、個々の好みや習慣に合わせて栄養の偏りがないよう努めている。また、水分も清涼飲料水や紅茶、コーヒーなど、本人の好きな飲み物の提供を工夫している。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。義歯の方は、毎食後の口腔ケアに加えて、週1回入れ歯洗浄剤で消毒して清潔を保持している。また、習慣化されていない方にも声掛けし、磨き残しのある方は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はすべての利用者が布パンツであり、必要に応じてパットを使用している。そのため、排泄パターンを把握し、介助の必要な方が失敗されないよう声掛け、誘導を行っている。けがや入院で一時的にオムツ使用になっても、徐々に排泄支援をし、自立に向けた支援を行っている。	要介護の平均が1.5と軽度ではあるが、全ての利用者が布パンツを使用している。汚してはいけないという緊張感が自立を支えている。失敗してもさりげなく誘導し、その頻度をチェックし、パッドや紙パンツの使用を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、個々の排泄習慣に合わせて、バナナや牛乳、ヨーグルトなどを食べていただいている。また、毎日の体操や歩行訓練で運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決まっているが、その日の体調に合わせて、利用者の意向を尊重できるよう努めている。	決められた日の入浴となっているが、季節ごとに回数を調整し、できるだけ希望に沿えるよう支援している。気の合う仲間と一緒に入ったり、入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめるよう工夫している。皮膚の状態などに合わせて入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、夕方の足浴実施や湯たんぽ・電気毛布を使用し、安眠できるよう工夫している。また、その日の体調に合わせて居室で静かに午睡できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分の内服説明書を1冊のファイルに綴じ、日々の介護記録の傍に保管し、職員誰もが服薬状況を確認できる体制にしている。内服の変更があった際は、看護師が申し送り帳に記入し、職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や本人から、趣味や性格などの情報を集めて、編み物や裁縫、絵画、畑仕事など、一人ひとりに応じた楽しみや役割を提供できるよう支援している。		



宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日は歩行訓練を兼ね、屋外に散歩に出るようにしている。今年は、全員が初詣に行くことができた。 また、ご家族の協力をもらいながら行きつけの美容室にも定期的に行き、外出の楽しみを持っていただけるよう工夫している。	天候に応じてホーム周辺を散歩している。買い物や美容室、喫茶店など、個々の希望を把握し出掛けられるよう支援している。春には近隣の公園へおにぎりを持って出掛けたり、また、個人的な場所へは家族に相談し、協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、使い慣れた財布を自己管理していただき、買い物を楽しんだりできるよう支援している。また、個人の預り金を施設が管理していることを説明しており、必要なものがあれば買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが習慣の利用者には、家族の協力のもと、居室にテーブルと椅子を設置し、いつでも自由に手紙が書けるよう配慮した。書いた手紙は職員がポストへ投函し、施設に届いた手紙はそのまま利用者にお渡ししている。また、電話の希望があった際は居室に子機をお持ちし、気兼ねなく会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、温度計と湿度計が設置しており、都度それを確認して加湿器やエアコンを使用している。また、掲示板や玄関、トイレ等には季節感を取り入れた花や飾り物を取り入れている。	ホールは換気や湿・温度管理、衛生管理がなされており、健康管理に配慮している。利用者が外を眺めたり、編み物をして過ごせるよう、ソファを配置している。玄関には季節の花を生け、壁には行事で楽しむ利用者の写真などを飾っている。食事時には調理の音や匂いが漂い、心地よい雰囲気となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにはソファや食卓が配置しており、テレビを見たり、日向ぼっこをしたり、それぞれが思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具はもちろん、個々に応じて家族の写真やCDラジカセ、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを置き、居室が居心地のいい場所になるよう工夫している。	居室は、利用者が過ごしやすいよう配置を工夫し、家族の写真や好みの花、家具などを置き、居心地よく過ごせる空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の変化する身体機能に応じて、歩行器具を検討し、安心・安全に歩行できるよう支援した。また、食事用の椅子を新調し直したり、歩行通路に障害物を置かないようにしている。		